

市長座談会

松江で子育てするお母さんたちの生の声を聞いていただき、上定市長ご自身の子育てでの経験や子育て政策について伺っていききたいと思います。



「宍道湖で遊んだ記憶をつくらせてあげたい」

松本：市長の松江での子連れお気に入りスポットはどこですか？

市長：私のイチ推しは、宍道町の「宍道ふるさと森林公園」ですね。リニューアルオープンして、キャンプやバーベキューが人気です。近くの「古墳の森」でサバゲー（サバイバルゲーム）を楽しむこともできますよ。

これから、宍道湖を「遊び場」にしていきたいと思っています。景色を楽しむだけでなく、子どもたちに水辺でチャップチャップ遊んだ記憶と愛着を持って欲しいですね。ホテル一畑前の千鳥南公園から整備を始める計画です。



「やっぱりもっと子どもと過ごさせていたらよかった」

高橋：私は3人目の子育て中ですが、3人目になってやってみると子育てが増えたりもしました。市長は子育てを振り返って、あれをしておけばよかったなと思われれることはありますか？

市長：うちは2人むすめがいますが2人とも大学生ですが、子育てのときの心境はだいぶ違いますね。長女のときには、ベビーカーで砂利の上を移動する際の振動さえも気になって、毎日ドキドキしながら子育てしていました。次女のときは、少し余裕が出てきたのと、生まれてすぐシンガポールに引っ越したこともあって、細かいことにこだわらず大らかに育てました。

帰国後は仕事が忙しくなって、週末しか一緒に過ごすことができませんでしたが、今となっては、育ち盛りの貴重な時間をもっと共有しておきたかったなあとしみじみ思います。ちなみに、父の日や誕生日に子どもたちからもらった手紙は、大切に取っております。



子育てサポートのサービスがいろいろあることは知っていても、有料のサービスをわざわざ利用するのかという声も気になってなかなか踏み込めずにいる人は私以外にもいると思います。出産時にクーポン券のようにお試して使える券などが発行されると気軽に利用しやすいかもしれません。

——— 奥 奈々恵さん(お子さん:12歳・6歳・4歳・2歳・0歳)

無料分があると最初のハードルが下がって良いですね！本当にしんどい時に登録からするのではなく分かっているサービスを思い浮かべられるのはありがたいですね。ぜひ導入を検討していただきたいです。

——— 中澤編集員

雨の日に遊べる場所がもっと多くあるといいなと思っています。

——— 高橋 真理子さん(お子さん:8歳・6歳・0歳)

小学4年生以上の学年の公的な居場所があるとありがたいです。児童館や公民館の開放など、その地域によって差があるのではなく一律で公民館などで取り組んでもらえたらありがたいです。

——— 江角 聡子さん(お子さん:7歳・4歳・0歳)

市長が掲げられていたグローバル教育に関心があります。多文化共生が、教育分野だけでなく子育て中の親子など市民イベントなどでも今後身近に触れられるようになっていったらいいなと思っています。

——— 松本 朝子さん(お子さん:4歳・1歳)

貴重なご意見をありがとうございます。実現したいことはわかりですが、限られた予算や施設を有効に活用するため、優先順位を付けて検討していきたいと思っています。



「育児が当たり前という雰囲気をつくれたら強い」

江角：うちは周りの理解もあり3人目出産の時は夫が3週間育児を取ってくれてとても助かりました。男性の育児取得や育児参加について、経営者や管理職の意識を変えるにはどのような工夫が必要だと思われませんか？

市長：男性の育児参加が「当たり前な世の中をつくっていく」ことです。日本ではまだ「男性が外で働き、女性は家庭を支える」という固定観念があり、全国的に見ても島根はその傾向が強いと感じます。「休みを取らず身を粉にして働くのが美德」という考え方も根強いですね。私がいたニューヨークでは、個々人の価値観が優先され、リモートワークも含めて多様な働き方や柔軟な休暇取得が認められていました。育児の取得によって会社の生産性が一時的に下がっても、互いに助け合う社風が育まれ、就職したい会社となって優秀な人材を採用できることも期待されます。

日本では周りの目を気にしがちですが、逆に全体の空気が「育児を取るのが当たり前」となってしまうえば強いと思います。

前向きに取り組む会社や育児を取得した方の声を積極的に紹介して、「ワークライフバランス」を尊重する気運を作っていきたいと考えています。



奥夫婦田満への工夫などあればお聞きしたいです。

市長：夫婦田満の秘訣になっているかどうかはわかりませんが、お互いのことは名前と呼ぶようにしています。

高橋：SNSを頻繁に更新されていると思います。ご自身で書かれているのですか？

市長：もちろんすべて自分で書いていますよ。1日の仕事を終えた帰宅の途中や、夜に自宅で更新することが多いです。



「もしいま3人目を授かったら?」

中澤：市長がもし今3人目を授かったとしたら、育児を取得されますか？

市長：もし授かることがあれば、市役所職員に理解してもらったうえで、育児を取得するつもりです。



「子どもは宝です」

中澤：最後に、子育て世代へのメッセージをお願いします！

市長：子どもは「宝」です。私は松江に生まれ育ててもらったことに感謝していますが、今松江で子育てをされているお父さん・お母さんには、「ここで子育てできて、子どもが育ってよかった」と実感してもらいたいです。

ここに暮らす皆さんが幸せを感じて、ずっとこの地で家族とともに暮らしたいと思えることが、松江が豊かなまちになるために、最も大切なことだと考えています。

今後皆さんからいただいたご意見を踏まえて、子育て環境の充実を図っていきますので、ご協力をよろしくお願い致します。



「子どもの進学先の情報収集は私が」

奥：私の家は5人の子どもがいて、夫の帰宅も遅いので毎日パパママと子育てしています。保育園の送りだけは夫に任せてもらって助かっています。市長は子育て中の家事の分担などはどうされていましたか？

市長：ああ家事はですねえ…（少し声が小さくなる）妻に任せっきりで自慢できるようなことはないのですが、ゴミ出し、風呂掃除、換気扇のフィルター交換などは私の担当です。（一同：そういうの助かります！）

子どもたちが小中高生のときには、塾の送り迎えをしていました。受験や進学先の検討は私の得意分野だったので、情報収集してエクセルの表にまとめて家族で相談しました。お金の支払いや管理も、主に私の担当ですね。

松本：お互いの得意分野をいかしたパートナーシップ大切ですよね。



《座談会参加者》
高橋真理子・奥奈々恵・江角聡子・松本朝子
【進行】中澤ゆかり【写真】大西大和【記事】松本朝子